

編集後記

雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	5
号	1
ページ	116
発行年	1986-06
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00007236/

会費納入のお願い

正会員、準会員、賛助会員で昭和60、61年度会費の未納の方は、事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No.128259）宛、または同封郵便振替用紙をご利用下さい。
(会計委員会)

原稿募集について

次号（第5巻、第2号）の発行は昭和61年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは昭和61年9月30日(火)必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。
(編集委員会)

編 集 後 記

第5巻、第1号をお届けするにあたり、発行が約1ヶ月程遅れたことについてお詫びしたい。今後このようにならないように万全の準備をととのえるつもりである。

前号は従来の号に比し、頁数が少なかったが、本号は原著5編、臨床1編、計6編と歯科放射線学金子昌幸教授の研修講座、さらにアラバマ大学歯学部歯学研究所のセオドール・クルリデイス教授の総説 Implications of Remineralization in the Treatment of Dental Caries の大論文などのご投稿、ご寄稿をいただき、内容の充実したものとなり、有難い次第である。年に1編ないし2編を本誌に投稿して本歯学会の発展に協力していただいた講座諸先生に感謝を申しあげたい。本誌の質的、量的充実の本歯学会および本歯学部の発展を示す証しでもあるので、研究心の旺盛な若い先生方が多数、本誌に研究成果を発表されることを切に期待するものである。

連続掲載の研修講座「顎腫瘍のX線診断(その3)」は前号の非歯原性良性腫瘍につき悪性腫瘍が取扱われており、各疾患の概説とX線写真の説明がなされている金子教授の力作である。X線写真の疾患の診断名が求められる臨床歯科医の恰好な手引きで、生涯教育の研修講座である。資料も豊富で、敬服にたえない。

クルリデイス教授の総説は専務理事岡田泰紀先生のご尽力によるもので、その経緯および神奈川歯科大学助教授寺中敏夫先生による全訳などについては全訳の末尾に記載されている。日夜ご多忙のところ、ご恵送いただき、心からお礼を申しあげたい。クルリデイス教授は窩洞形成前の初期齲蝕の治療は conservative dentistry であって、修復処置をすすめていない。その根拠は齲蝕巢内におこる再石灰化と抗齲蝕性の consolidated lesion の *in vitro*, *in vivo* の実験の結果に基づいている。そしてその現象を歯のミネラルと口腔液（唾液、フッ素イオンなど）との相互作用の観点から眺め、免疫とか軟部組織の創傷治療に相応する反応としてみなしている同教授の眼が行きとどき感銘ぶかく読了した。その全訳掲載は英文の対訳という研修の意味をもつものとしてご了承いただきたい。

本誌の海外交換雑誌として16ヶ所の海外施設の図書館に送付したが、それに伴って表紙2に学会役員名と編集委員名を英文でかかげてある。最近、生涯研修講座の一端として、歯科臨床医に役立つような記事をいれる小雑誌の新しい発行も企画されているが、その小雑誌によって会員相互の絆を一層密にするものとして、その発行が期待されている。(T. O. 生)